



- 主な内容
- 定例会9月会議
- 一般会計47億円を支出…2
- 決算審査特別委員会レポート
- 主要施策の成果を検証…4
- 一般質問
- ここが聞きたい
- 8議員が町政を問う…8

毛越寺門前直売 あやめ ～大好評の「きんいろあんぱん」～

農事組合法人「アグリ平泉」では、平泉産物の小麦をパンにりんごをシードルワインに加工して販売しています。
多くの方々にご紹介をお願いしますね！

私もひとこと



平泉字大沢
佐々木和也さん



平泉字鈴沢
青木由美子さん

●今活動していることは
剣道スポーツ少年団の指導をして20年が過ぎました。現在活動しているのは5人の子ども達です。一生懸命稽古に励んでいます。また、子ども達の健全育成の一役になればと思います、スポーツ少年団の副部長を務めています。

●気になっていないことは
スポーツ少年団で育成した子ども達が、中学校でクラブ活動を継続できないことを残念に思っています。中学校のクラブ活動の種目や選択について、学校とスポーツ少年団で連携し、選手育成ができないものかと以前から気になっていました。

●議会や町に望むことは
地域住民の自主的・主体的な運営で行う「総合型地域スポーツクラブ」に期待を

●今活動していることは
2011年から「毛越寺門前直売あやめ」きんいろばん屋で店長を務めています。長島産のこゆき小麦を使い、甘みともちもち感のあるパンを作っています。仙台市出身ですが、長島の広大な小麦畑を見て、平泉でパンづくりをしようと決心しました。

●気になっていないことは
平泉はたくさんのお客様が訪れています。町の人が普段からもう少し「おもてなし」の気持ちを表すべきではないでしょうか。歴史遺産はもちろん、自然豊かな平泉に、町民は誇りを持って、訪れる人に「平泉愛」を発信してほしいと思っています。

●議会や町に望むことは
5歳の息子は長島保育所の年長組でのびのびと育っています。日頃感じるのは遊ばせる場所が足りないことです。東稲山の自然を利用したアスレチック場を整備してはどうでしょうか。また、はつとやがんづきなどの食文化の体験や、葉タバコや養蚕の営み、発掘現場の見学など、平泉ならではの魅力を生かした滞在型観光を目指すべきだと思います。

訪れる人におもてなしの心を

表紙の紹介



地場産業の育成と農業の活性化を図るため、地域農産物の加工、直売の活動拠点として、平成22年2月にオープンした「毛越寺門前直売あやめ」は、来年で10周年を迎えます。アグリ平泉が開発した、リンゴのワイン、シードルと長島産「こゆき小麦」100%の「きんいろあんぱん」がおすすです。きんいろばん屋のパンは町内小学校の学校給食に提供し、児童の卵アレルギーにも対応するなど工夫されています。

あとがき

9月の定例会議では一般質問8人が登壇し、町政の諸問題をただしました。また、平成30年度決算審査特別委員会が行なわれ、来年度の予算に反映

されるよう審査意見を付して終了した結果を報告します。

編集スタッフ

委員長	升沢 博子
副委員長	氷室 裕史
委員	阿部 圭一
委員	寺崎 敏子

議会だよりは再生紙を使用しています

町民の皆様のご意見・ご要望をお待ちしています。

財政を見るポイント

- 1 財政力指数 0.32**
前年度から0.01ポイント向上
↑
予算のうちどれくらい自前の財源で賄えているかを表します。高いほど財政力が強いことを表します。
- 2 経常収支比率 90.3%**
前年度から1.1ポイント悪化
↓
人件費など毎年度かかる固定費の割合。数値が高いほど経常的に使うお金が多くなります。
- 3 実質公債費比率 9.1%**
前年度同率
→
一般会計が負担する借金返済額の割合。数値が高いほどほかの財源に充てるお金が必要になります。
- 4 将来負担比率 52.7%**
前年度から4.3ポイント向上
↑
将来一般会計が負担する借金返済額の割合。数値が高いほど他の財源に充てるお金が必要になります。

実質公債費比率、将来負担比率が減少していることから、現在の借入金が減少していることがわかります。今後の大規模事業による借入金の増額が懸念されます。

このような事業が行われました

平泉スマートインターチェンジ関連費用に 6億3383万円

令和3年3月開通予定のスマートインターチェンジ関連費用として、用地取得に9011万円、接続道路の工事に1億7499万円、スマートインターチェンジ工事負担金に3億2376万円などを支出しました。

教育環境の充実に 3191万円

平泉中学校体育館屋根葺替工事1790万円、平泉中学校校庭防球ネット356万円、長島小学校バックネット修繕133万円、平泉小学校校舎出入口監視システム修繕59万円、学校備品購入455万円等の整備を行いました。



屋根葺き替え工事の終わった平泉中学校体育館

医療費の助成に 5036万円

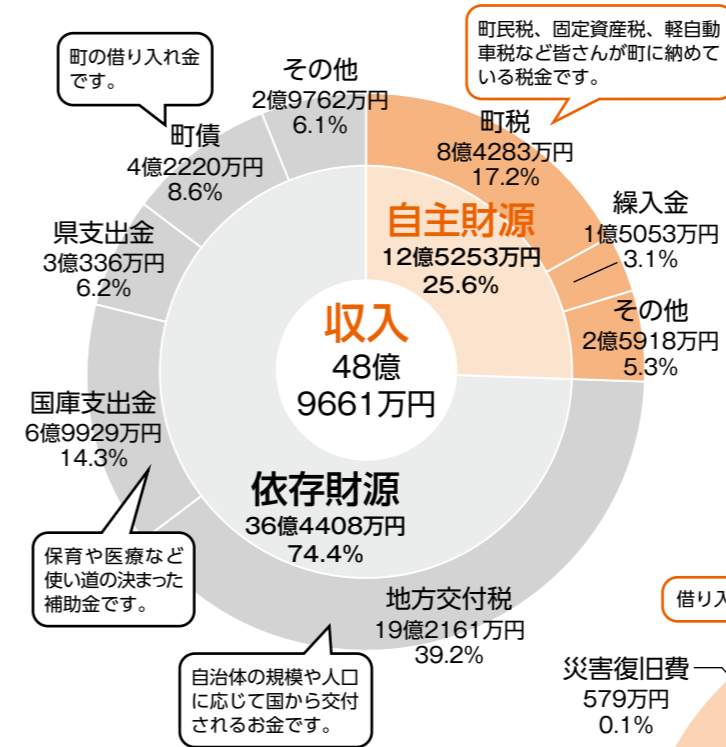
18歳以下の医療費は無料になりました。令和元年8月からは、小学生までの医療機関での窓口で支払いが無用となりました。

ごみ・し尿の処理に 1億2112万円

ごみ等の処理は利用割（90%）等によって負担しています。処理したごみの量は2128.7トンで、前年に比較すると1.7トン減少しています。また、し尿は4310.26KLで、前年に比較すると2.4KL減少しています。今後、新焼却施設・最終処分場の建設が計画されているため、多額の費用がかかります。

平成30年度 決算 一般会計は47億を支出

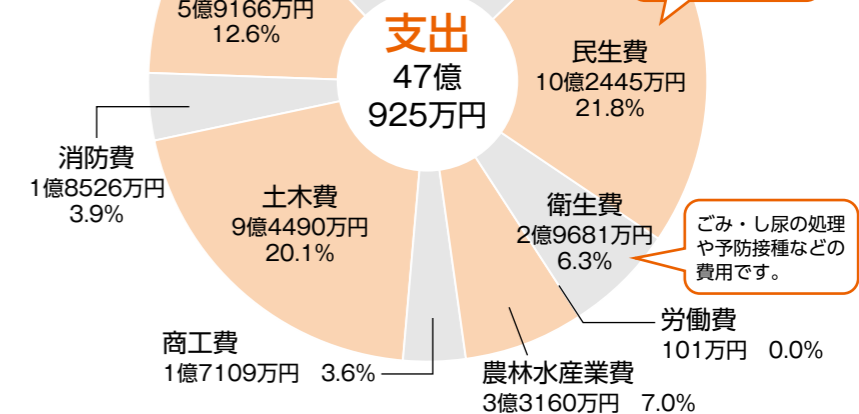
一般会計



議定例会9月会議は、4日から13日までの10日の会期で開催しました。30年度の決算審査では、特別会計等を含む8会計の決算を認定しました。そのうち、一般会計は、前年度比0.5%増となりました。収入では、財源不足を補うための基金からの取り崩しを行ったため、自主財源比率が6.8%上昇し、25.6%となりました。また、歳出では平泉スマートインターチェンジに係る事業費や町道祇園線の整備に係る費用などが増加しました。収入から支出を引いた残額は、1億8735万円となっています。

※四捨五入により合計が一致しないことがあります。

平成30年度に、簡易水道事業特別会計は廃止され、水道会計と統合されました。



平成30年度各会計決算

会計区分	収入済額	支出済額	差引額	(参考) 29年度支出済額	
一般会計	48億9661万円	47億925万円	1億8735万円	46億8430万円	
特別会計	国民健康保険会計	8億3575万円	7億6430万円	7144万円	9億2982万円
	後期高齢者医療会計	8564万円	8458万円	107万円	8119万円
	健康福社交流館会計	6752万円	6503万円	249万円	6320万円
	町営駐車場会計	8007万円	7546万円	461万円	6418万円
	下水道事業会計	2億9734万円	2億9496円	238万円	3億3332円
	農業集落排水事業会計	6947万円	6791万円	156万円	7278万円
簡易水道事業会計	-	-	-	1億7508円	
合計	63億3239万円	60億6149万円	2億7090万円	64億253万円	

会計区分	収入済額	支出済額	(参考) 29年度支出済額	
水道事業会計	収益的収入・支出	2億9290万円	2億7106万円	1億5233万円
	資本的収入・支出	1億9976万円	2億9735万円	1億6022万円

資本的収入の不足額は積立金、過年度分の補充金等で補填した。

決算審査意見(要約)

代表監査委員 鈴木清三 / 議選監査委員 佐々木雄一

平成30年度の決算認定にあたり、監査委員から決算審査意見書の報告がありました。

審査結果の講評(要約)

- 1 収入未済額及び不納欠損額の圧縮**
徴収率、収入未済額は、早期納付勧奨や徴収業務の地道な実施等により、改善が図られている。滞納の初期段階での迅速な対応により収入未済の事前防止に努められたい。
また、滞納者の支払能力等個別事由を調査・判断のうえ厳正に処理されるよう努められたい。
- 2 時間外勤務について**
「ワーク・ライフ・バランス」推進の一環としての「働き方改革」が推奨される今、組織の在り方として職場全体で取り組むべき課題と捉えていくよう意識改革に努められたい。
- 3 持続可能な財政運営**
今後の事業、施策の展開に当たっては、投資効果を十分に見極めつつ、特に大型の投資案件については、真に必要なハード事業を見極め、施設の適切な維持管理に努め長寿命化を図るとともに、民間活力の導入等も検討し、健全な財政運営の維持に努められたい。
- 4 内部統制システムの構築について**
内部統制システムの構築については努力義務となっているが、業務内容やそのプロセスを“見える化”することにより、業務プロセスに内在している不合理なルールや無駄を排除でき、行財政改革の更なる推進の一助となる。地方自治運営の基本原則「最小の経費で最大の効果」に資するものであり、システムを構築すべく努められたい。





委員長 寺崎 敏子



副委員長 水室 裕史

主要施策の成果を検証

9月10日、11日に決算審査特別委員会を開催し、平成30年度歳入歳出決算を審査しました。主な質疑及び答弁を一部報告します。

農業振興に新たな手立てを

問 野菜花卉生産振興事業補助金の当初予算と決算額の差額から活用への苦労が見受けられるが、その内容と見解は。

答 黄金メロンをはじめ、農産物で力を入れている品目について苗代等の補助を行うものである。現在、

出荷者数もあまり増加しておらず、横ばいで推移しているのが現状である。

問 様々な補助制度を作り、農業振興を図っている。以前、ビニールハウスへの補助があった。それもなかなか利用が見解を伺う。



道の駅平泉での「黄金メロン」試食販売会（8月31日）

答 道の駅のオープンに合わせ、苗代の補助、あるいはビニールハウスの補助も年々緩和している。しかしながら、担い手、後継者が育っていないという現状がある。さまざまな補助制度を設けているが、あまり活用されていないのが実情である。今後は、様々な先進事例等も研究しながら模索をしていきたい。

問 2市1町の協働体制について活動していく動きがある。これに対し何らかの

答 各地域が協働で、産業まつりの縮小版のような取り組みを始めている。東稲山麓地域の認定推進協議会の中に補助制度があり、ソフト事業に対して1団体10万円活用できるものがある。当町は既にこの認定推進協議会に負担金を出しているため、さらに助成を出すことは考えにくい。しかし、取り組みが拡大していく中で、新たな動きがあれば考えていく余地はあると考える。

自主財源 確保への方策は

問 税金が伸び悩む中、自主財源の確保をどう考えているか。

答 企業誘致に伴う企業団地の造成等が実現すれば、税収の増加が見込まれる。

問 建設予定の新社会教育施設の中に子育て機能も入る。

答 誘致企業などの程度の事業規模になるか等、全容が見えてから見込み額は明らかにするが、少なからずプラスにはなると考えている。

社会福祉協議会との連携を密に

問 社会福祉活動専門員設置事業補助金の平成28年、29年の決算がおよそ420万円、30年度の決算が230万円である。減額の理由は。

答 専門員が代わったことによる。その専門員の給料の差額である。

問 社会福祉協議会の専門職員の活動量は増えている。それにより、何らかの支障をきたす事はなかったのか見解を伺う。

答 事業を進めていくうえで、専門員という役割は非常に重要な役割である。

やむを得ない理由で専門員は代わったが、これからはそういったことがないよう社会福祉協議会と連携を図りながら事業を進めていきたい。

問 社会福祉協議会は平成22年からJAとの賃貸借契約により、現在の建物で運営されている。令和3年2月で契約期間が終了、JAは更新しないとされている。今後移転などが考えられるが、町として支援を考えているか。

答 同協議会は町の社会福祉全般を担っている団体であり、移転しなければならぬとなれば、支援を考えていく。

問 福祉活動センター「アピュイ」の子育て広場は、子育て支援施設として多くの親子に利用されている。今後、社会福祉協議会が担ってきた子育て支援はどこが行うことになるのか。

答 建設予定の新社会教育施設の中に子育て機能も入る。

問 令和3年2月から令和4年7月までの間、親子の遊び場がないことになるが。

答 そのようなことにならないよう対策を考える。

公共交通の充実を

問 代替バス運行費補助金が485万円と前年度から大幅に増額されているがこの内容は。

答 県交通バスの廃止路線に対して代替バス運行への補助金である。当初は200万円からスタートしたが、今では倍以上になっている。利用者が増えれば、それに伴って赤字分を補填す

るのが要因である。現在、公共交通の見直しを検討しているが、この路線は現在のままなら、いずれは助成もできなくなる恐れもある。バス利用の啓発はもちろん、代替案も検討したい。



公共交通の代替案も検討

審査意見

- 1 総合計画の策定にあたっては、町民の意見が反映されるよう配慮し、また、中・長期的な財政計画を作成するなど、財政に充分考慮し、慎重に対応すること。なお、自主財源の確保は現状を鑑み、具体的な対策を講ずること。
- 2 委託事業、補助事業及び交付金事業については、その成果の検証・報告を積極的に行い、効果的に取り組むこと。
- 3 子育て支援については、心身の健全な発達を図るため、実効性のある施策の展開に努力すること。
- 4 基幹産業である農業に対し、今後を見据え若年層を含めた就農者支援策を講じるよう努めること。
- 5 職員の負担や健康に配慮しつつ、必要な人員の確保と適正な配置を図るなど、業務執行体制の充実強化に努めること。

議案内容と審議結果

議会定例会9月会議（9月4日～13日）

議案番号	議案及び内容	結果
平成30年度決算の認定		
第1号	一般会計歳入歳出決算の認定	認定 (賛成全員)
第2号	国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定	認定 (賛成全員)
第3号	後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定	認定 (賛成全員)
第4号	健康福祉交流館特別会計歳入歳出決算の認定	認定 (賛成全員)
第5号	町営駐車場特別会計歳入歳出決算の認定	認定 (賛成全員)
第6号	下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定	認定 (賛成全員)
第7号	農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定	認定 (賛成全員)
第8号	水道事業会計決算の認定	認定 (賛成全員)
条例の一部改正		
第39号	印鑑の登録及び証明に関する条例の一部改正 (住民基本台帳法の施行令の改正に伴い、印鑑登録証明書にも旧氏を併記し、男女の別を記載しないことにするもの)	可決 (賛成全員)
第40号	道路占用料徴収条例の一部改正 (消費税及び地方消費税の税率の引き上げに伴い、道路占用料を改定するもの)	可決 (賛成全員)
第41号	水道事業及び簡易水道事業給水条例の一部改正 (水道法の一部改正により、指定給水装置工事事業者指定後5年ごとに更新を行うため、手数料を改正するもの)	可決 (賛成全員)
令和元年度補正予算		
第44号	一般会計補正予算（第4号） (社会教育施設整備に係る建物移転費2400万円や財政調整基金への積立金5687万円などを追加し、総額53億4635万6千円とする。)	可決 (賛成全員)
第45号	国民健康保険特別会計補正予算（第1号） (繰越金を財政調整基金へ5924万円積立するなどを追加し、総額8億3102万6千円とする。)	可決 (賛成全員)
第46号	後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号） (後期高齢者医療広域連合納付金107万円を追加し、総額8466万8千円とする。)	可決 (賛成全員)
第47号	健康福祉交流館特別会計補正予算（第1号） (臨時職員の賃金やテレビの購入費を追加し、総額6972万8千円とする。)	可決 (賛成全員)
第48号	町営駐車場特別会計補正予算（第1号） (駐車場整備基金への積立226万円などを追加し、総額7290万7千円とする。)	可決 (賛成全員)
第49号	下水道事業特別会計補正予算（第1号） (消費税及び地方消費税5万円を追加し、総額3億55万円とする。)	可決 (賛成全員)
第50号	農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号） (人事異動による職員の人件費333万円などを追加し、総額7722万6千円とする。)	可決 (賛成全員)
第51号	水道事業会計補正予算（第1号） (収益的費用323万円の減額及び資本的費用202万円の追加)	可決 (賛成全員)
人事【同意】		
第1号	固定資産評価審査委員会の委員の選任に関する同意	同意 (賛成全員)
第2号～4号	職員懲戒審査委員会の委員の任命に関する同意	同意 (賛成全員)
第5号	教育委員会の委員の任命に関する同意	同意 (賛成全員)
契約・その他		
第42号	工事請負契約の締結 (町道祇園線道路改良工事(その2)の施行に伴い、契約を締結するもの。契約額7910万円)	可決 (賛成全員)
第43号	水道事業会計未処分利益剰余金の処分 (平成30年度の水道事業未処分利益剰余金1531万9139円の処分を決定するもの)	可決 (賛成全員)
報告		
第8号	健全化判断比率及び資金不足比率の報告 (実質公債費比率は9.1%、将来負担比率は52.7%、赤字負担比率等はありませんでした。)	—

議会定例会7月会議（7月29日）

議案番号	議案及び内容	結果
令和元年度補正予算		
第38号	一般会計補正予算（第3号） (工業団地整備に係る工事費2500万円などを追加し総額52億3667万8千円とする。)	可決 (賛成全員)
契約・その他		
第36号	工事請負契約の締結 (北上川上流改修附帯町道祇園線小金沢橋架替工事の施行に伴い、契約を締結するもの。契約額2億2267万6280円)	可決 (賛成全員)
第37号	工事請負契約の締結 (平泉町立平泉小学校空調設置工事に伴い、契約を締結するもの。契約額5115万円)	可決 (賛成全員)
報告		
第6号	専決処分の報告 (草刈り作業中の飛び石により車両を破損させたことによる損害賠償の額の決定と和解。損害賠償額6万2424円)	—
第7号	専決処分の報告 (認定外道路の下水道マンホールの接触事故による損害賠償の額の決定と和解。損害賠償額24万8726円)	—

議会定例会9月第2回会議（9月30日）

議案番号	議案及び内容	結果
条例の一部改正		
第52号	平泉町子どものための教育・保育に関する利用者負担額を定める条例の一部を改正する条例 (子ども・子育て支援法の一部改正により、幼児教育・保育の無償化に伴う改正)	可決 (賛成全員)

10月から 幼児教育・保育の無償化が始まりました。

3～5歳児と町民税非課税世帯の0～2歳児が対象です。対象費用等詳細は「10月号広報ひらいずみ」をご覧ください。

人事案件

全員賛成により同意しました。

固定資産評価審査委員
(任期：令和4年9月27日まで)

千葉 昭夫さん(再任)

職員懲戒審査委員
(任期：令和4年9月30日まで)

佐藤 敏雄さん(再任)、小室 光子さん(再任)
千葉多嘉男さん(再任)

教育委員
(任期：令和5年11月17日まで)

本澤 京子さん(再任)

本会議での議案質疑

議案第44号 一般会計補正予算（第4号）

社会教育施設建設事業費の増加を懸念

Q 社会教育施設整備費の建物移転補償費2400万円について伺う。2件の移転費用の総額を示すことができるのか。

A 地権者と用地交渉を進めており、建物移転補償費の要求があり、1件合意に至ったので予算計上した。もう1件については、現在、調査と交渉をしている。

Q 用地取得費は当初1億1000万円を見込んでいたが、この度の補正のように、費用が膨らむことも想定しているのか。

A 移転費用も含めて1億1000万円でおさめたいと考えている。用地交渉の過程で増えることもあり得るが、その場合は議会に説明をする。増額するのは用地買収費であり、事業者に提示する建設費は変わらない。

定例会 9月会議

議案審議 9/4～13 (10日間)

議案第42号 町道祇園線道路改良工事 請負契約の締結

改良工事が進む町道祇園線

Q 町道三日町瀬原線から高速道路方向にむかって347.5メートルの改良舗装を行うものであるが、改良工事でラウンドアバウトの環状交差点の工事も入るのか。

A 今回の工事でラウンドアバウトの形状も出来上がってくる。今回、舗装する箇所は、県道三日町瀬原線から高速道路に向かって40メートルの車道部分である。それ以外の舗装工事は次年度となる。

*ラウンドアバウトとは、3本以上の道路を円形のスペースを介して接続した信号機がない交差点



岩手県内初、宮古市の環状交差点（ラウンドアバウト）

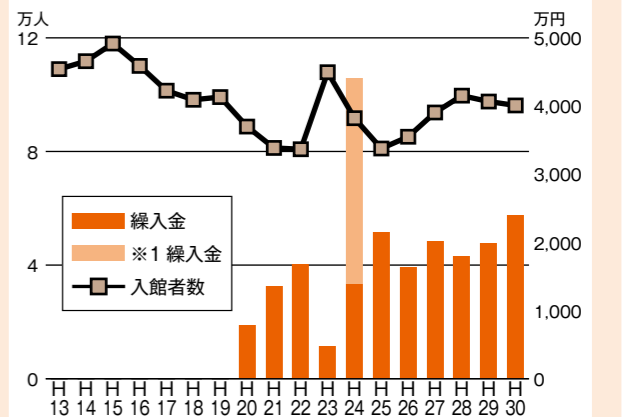
議案第47号 健康福祉交流館特別会計補正予算（第1号）

再生に向けた取り組みを

Q 年々一般会計からの繰入金が増加している健康福祉交流館（平泉温泉）の経営状況、財務状況をコンサルティング会社に依頼して現状分析を行い、再生に向けた取り組みを進めるべきではないか。

A コンサルティングを受けるかどうか内部で検討している。

健康福祉交流館入館者数と繰入金の推移





氷室裕史 議員

町長 事業戦略協議会を開き、参加企業間での情報共有を統制するための規約自体はできている。しかし、具体的な中身に関して詰める部分がある。

町長 現在、金融機関と開発会社が数件入り、何らかの形で参画できないかを見据えながら協議をしている。

問 SICに付随する1100台分の

町長 当初から間にいきたいと考えてきたが、現段階ではSICの供用開始時に全てが進んでいるという状況ではない。しかしながら、SICの供用開始にあわせて何らかの見える形を示したい。

町長 はなく、有事の際に対応するための訓練という認識はある。内容等を再度、幹部会で意見

問 現状、支部大会の訓練には手当てが支給されているが、有事の際に向けた訓練に差を生じさせるべきではないと思うが見解は。

町長 町側から積極的に具体的な操作法を含めた指導会というものはしていない。今後、全ての防災無線を設置している学校等も含めて、そういう形の講習会も必要であると考えているので、対応を検討していきたい。

議員の
ひとりごと

消防の訓練は大会に向けた訓練ではなく、有事の際に向けた訓練であり、それに向かう消防団員の訓練にある程度の配慮があればと考えます。

問 定例会6月会議の答弁で平泉スマートインターチェンジ(以下SIC)事業戦略協議会の立ち上げに動いていると答弁があったがその後の動きは。

問 町内の既存企業と競合し、結果的に淘汰してしまうような企業の進出は避けるべきと考えるが見解は。

問 令和3年3月の平泉SICの供用開始に周辺開発は間に合うのか。

問 幹部会等で検討していきたい

問 各地区公民館に配備されている移動系防災行政無線の使用法等について適切な頻度で指導等は行われているのか。使用法がわからないという声も上がっている。



消防団員は消火訓練だけではなく、水防訓練も行う

A 供用開始時には見える形に

Q SIC周辺開発の現況は

スマートインターチェンジ

そのため、第1回の協議会を10月上旬に開催する予定である。

その開発会社が参画する企業を連れてくると考えている。町としては乱開発も含め、地元の既存企業との競合は避けたいと考えている。

町長 南側の周辺開発が遅れてくる

となると、設ける必要性が出てくる可能性もある。駐車場の利活用も含め、役場内でも検討したい。

を聞きながら、良い方向で検討を進めていきたい。

議員が町政を問う

9月会議 一般質問

「こころ」が聞きたい!

●氷室裕史 議員…P9

- ① 町内の防災対策全般と消防団の現状は
- ② 平泉町スマートインターチェンジ周辺開発の現状は

●寺崎敏子 議員…P10

- ① 生活習慣病の改善と対策について

●千葉勝男 議員…P11

- ① 人口減少問題について
- ② 束稲山麓世界農業遺産登録に係る課題について
- ③ 災害に対する防災対策について
- ④ 国道4号沿いに位置する土取場について

●真竈光幸 議員…P12

- ① 町内橋梁長寿命化修繕計画について
- ② 放課後児童クラブのありかたについて

●三枚山光裕 議員…P13

- ① 主要地方道一関北上線及び一般県道相川平泉線の交通安全対策について
- ② 町道の維持管理について
- ③ 幼児教育・保育の「無償化」に伴う給食費負担について
- ④ 新社会教育施設の「公民館機能」について

●升沢博子 議員…P14

- ① 保健事業について
- ② 協働の町づくりについて

●高橋伸二 議員…P15

- ① 平泉町「屋外広告物条例」の見直しについて
- ② 教育振興について

●阿部圭二 議員…P16

- ① 学童保育について
- ② 中尊寺第1駐車場の拡張について
- ③ 河川敷の立木伐採について

◆ 一般質問とは、議員が執行機関である町長などに対し、事業の状況や将来の方針などの諸問題について問いたすものです。平泉町では一人60分以内の制限時間で質問を行います。

■ information

令和元年議会定例会12月会議のお知らせ

12月5日(木)～12日(木)開催予定。

議会はどなたでも傍聴できます。 ※本会議はインターネットで生中継しています。



※ 上記のQRコードを携帯のカメラで読み取ると平泉町の議会中継をホームページ上で見ることができます。

Q 食生活習慣の改善策は

A 幼児期から食への関心を



寺崎 敏子 議員

問 生活習慣病の予防策は。

町長 生活習慣が深く関与する疾患である、三大疾患（悪性新生物・脳血管疾患・心疾患）が主な死亡原因となっている。予防策としては、定期的な検診や特定健康診査の受診と、ハイリスク者への早期発見につながる予防や、生活習慣を見直す運動や食の事後指導を行っている。

問 基本的な食生活と栄養指導は。

町長 健全な日常生活は、バランスの良い食生活と生活習慣を基本に健康教室を開き、食生活改善推進協議会と協力して保健・栄養指導を行っている。

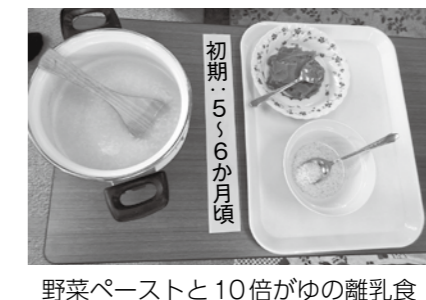
問 事後指導内容とは。

保健センター 生後5カ月からの離乳食開始に向けて、生後4カ月児を対象に離乳食教室を開催している。心身の成長発達を観察し、母親にもわかりやすい離乳食指導や問診での栄養状況を把握し、不安や疑問を解消できるよう、母親に安心して子育てできるよう指導を行っている。

問 親への栄養と離乳食指導は。

保健センター 月からの離乳食開始に向けて、生後4カ月児を対象に離乳食教室を開催している。心身の成長発達を観察し、母親にもわかりやすい離乳食指導や問診での栄養状況を把握し、不安や疑問を解消できるよう、母親に安心して子育てできるよう指導を行っている。

教育長 小学4年生と中学1年生の希望者116人を対象に、岩手県予防医学協会で行っている。主な所見としては、肥満・コレステロール値・肝機能の異常がみられる児童・生徒54人が検査の結果、事後指導を行っている。



野菜ペーストと10倍がゆの離乳食

教育次長 養護教諭と連携し、食生活や生活習慣などの保健指導を学期末の三者面談等で意識付けを行っている。

問 幼児期の食育指導は。

教育次長 幼稚園・保育園・保育所・保健センターと連携し、「食に関心をもち、食べることに大切さを理解できる」「健康な体作りのために食習慣を身につける」「おいしく食べられるよう、歯と口腔の健康の取り組み」と三つの目標をもって食育指導を行っている。

問 学童期の食育指導は。

教育次長 小学校での「食に関する指導の年間計画」に基づき、発達段階に応じて栄養教諭・養護教諭で行っている。

町長 一本化には、共有する課の情報共有のあり方を協議し、どの方法がベストか、更に検討したい。

問 多様な社会状況の中、「子育て世代包括支援センター」の必要性を感じるが、当町での一本化への検討は。

町長 健全な日常生活は、バランスの良い食生活と生活習慣を基本に健康教室を開き、食生活改善推進協議会と協力して保健・栄養指導を行っている。

問 小中学校を対象に生活習慣病予防検診の現状は。



ピヨピヨ広場（1歳未満の親子）での離乳食教室

問 食は「心の健康」と思うが、今後の食育指導は。

教育長 一日三食のうち二食は家庭の食事となる。その食事については、昔と生活リズムが違っている。

心の健康度の低い子は、個食で寝つきも悪く、家族との会話も乏しいそうです。健康は、食事から。ワイワイと楽しい食卓を囲みましょう。

議員のひとりごと

Q 人口減少問題の見解は

A 深刻な問題と捉えている

問 人口減少に係る就労の場の確保と人口流出の抑制。居住環境の整備等の取り組みは。

町長 就労の場の確保は企業誘致が有効と考える。高田前工業団地南側の造成が決まり、立地企業が決まりつつある。人口流出については雇用の場の確保が必要であり、世代を交えて協力し合う持続可能なまちづくりに取り組む。

また居住環境については、遊休町有地の子育て世代への住宅分譲と民間の宅地開発や集合住宅の建設を促し居住環境の整備を推進する。

町長 農地の荒廃については特に記述項目はないが、地域の農業を荒廃地区としてそのままにしておくのではなく、いかにして有効活用しながら、農業振興に結びつけていくかが重要と考える。

Q 世界農業遺産登録の認定は

町長 農地の荒廃については特に記述項目はないが、地域の農業を荒廃地区としてそのままにしておくのではなく、いかにして有効活用しながら、農業振興に結びつけていくかが重要と考える。

問 農地の荒廃が進む中、世界農業遺産登録との因果関係は。

町長 支障木等については、所有者の理解を頂きながら、通行に支障のないように計画的に行っていく。

問 東稲ゴールドラインの支障木の除去の考え方は。

町長 大平堰の狭小箇所からの越水が原因と思われる。改善対策を検討する。

問 大平堰に係る治山ダムは、その内側等に竹が繁茂し大雨時にはゴミ等が詰まり危険と思われる。その見解は。

町長 現在は機能が十分に発揮していると考えられる。ダム本体は岩手県が管理している。今後、繁茂した場合、町で管理をすることになる。



繁茂した竹に行政も対策を（治山ダム）

大平堤から大平堰、それに係る治山ダム等。大雨などの防災対策をせねばな～。

議員のひとりごと



千葉 勝男 議員

町長 支障木等については、所有者の理解を頂きながら、通行に支障のないように計画的に行っていく。

問 大平堰に係る治山ダムは、その内側等に竹が繁茂し大雨時にはゴミ等が詰まり危険と思われる。その見解は。

町長 現在は機能が十分に発揮していると考えられる。ダム本体は岩手県が管理している。今後、繁茂した場合、町で管理をすることになる。

Q 橋の老朽化には点検補修を

A 予防保全で、長寿命化を図る



真筆光幸 議員

問 町が管理する93橋のうち、供用後30年以上経過した橋が59橋ある。点検状況はどうなっているのか

町長 平成27年に4橋、28年に4橋、29年に78橋、30年に7橋行った。

健全と判断された橋が42橋、定期的に診断の必要がある橋が49橋、早期修繕が2橋ある。

問 供用年数が重要な要因であるが、保全の優先順位はどう決めているのか

町長 橋の重要度から判断するもので、供用年数は要因ではない。

問 橋の内部の金属疲労やコンクリート内部の腐食等は目視ではわからない。供用年数順に専門家による検査は必要か

橋の内部の金属疲労やコンクリート内部の腐食等は目視ではわからない。供用年数順に専門家による検査は必要だ。

建設水道課 長 日常の点検以外に5年ごとの点検をコンサルタントに見てもらっている。



早期の補修が望まれる橋

問 戸河内の沢田橋は、橋桁下部のコンクリートが亀裂剥離落下している。また男滝橋はコンクリートが劣化し非常に状態が悪いが、整備計画に入っていない。劣化した橋より健全な橋が優先される整備計画はおかしいのではないか

建設水道課 長 沢田橋は計画に入っており再来年までには修繕する。男滝橋は迂回路があることから、維持工事の後になる。

問 日常的な点検・頻度は十分か

建設水道課 長 職員によるパトロールは頻繁に行うのは難しい。利用者の情報をいただいで確認するよう連携を図っていききたい。

問 日常の管理や軽微な維持作業は地域住民との協同体制を構築し、住民参加で維持していく意識を高めるために、橋の老朽化マップを町民ホールに掲示など情報の発信も必要と思うが

町長 その提案は重要であると思う。住民参加で情報を共有しながら維持していく方法を検討したい。

橋も高齢化。早期の補修を必要とする橋が増えています！

議員のひとりごと

Q 放課後児童クラブ運営に、保護者の意見の反映を

A 要望を参考に協議・検討する

問 放課後児童クラブに入れない待機児童の解消に向けて、保護者の意見も取り入れながら、運営の改善に努めて欲しい。

町長 子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケートでいただいた要望を参考に、協議検討する。

Q 県道の交通安全対策は

A 関係機関と意見交換し対策を

問 主要地方道一関北上線及び県道相川平泉線の交通安全対策について、県への要望内容と、町独自の「交通安全対策」の考えを伺う。

町長 県には、長島ヶ坂地内からの竜ヶ坂地内までの路線変更を含む、歩道拡幅、急カーブ等の解消工事などを要望している。交通量が増加しており、地域住民に啓発し、



「横断歩道有り」の標識は見えにくい長島野田の交差点

警察や道路管理者とも意見交換を密にし対策を講じたい。

Q 町道法面等の立木伐採の基準は

A 基準は無い、私有地は所有者に

問 町道の法面等の立木の繁茂で見通し悪化、道路も狭くなる。交通安全上も、定期的な伐採、枝払い等が必要だ。維持管理の基準はどうなっているのか

町長 基準は設けていない。通行の支障となる立木は職員のパトロール、道路利用者からの情報で確認し対応している。

町道の立木は町道の維持管理として行い、私有地から張り出したものは所有者にお願いする。

問 西風線、中鈴峯小倉線の伐採の住民要望がある。国は基準があり、高木、中低木は3年に1回となっている。所有者確認は必要である。交通安全の上では、町有地、民有地こだわらず、柔軟な対応が必要ではないか

建設水道課 長 国基準に即した対応はできる。業者対応、直営も含め対応している。民地から生えているものでも所有権のある方から許可をとって作業する形になる。

Q 「幼児教育・保育」の給食費の軽減を

A 国方針と同様に保護者負担に

問 「幼児教育・保育の無償化」に伴う給食費の負担について、副食料費は公的給付から外され、年収360万円以上は負担となる。

町長 現在、3歳から5歳までは主食は持参、副食費だけが、0歳から2歳は主食費も副食費も保育料に含まれ保護者負担となっている。国の方針同様に保護者から実費徴収する。

問 町内の負担対象者数と金額はいくらか

宮古市や横手市では無償にする。秋田県が「副食費助成事業」を始め、横手市はそれに乗せして「無償」にする。岩手県にも同様の制度を求め、はたらきかけるべきではないか。



6月は「保育料無償」の問題点を質問。9月は「無償」と言いながら副食費の「有料」を取り上げた。全国で100を超える自治体が「無償」にする。平泉こそ「魁」となってほしかったなあ。

議員のひとりごと

その他質問事項
・新社会教育施設の「公民館機能」について

Q 保健事業で町の目指す姿は

A 健康な町民、健康な町を作ること



升 沢 博 子 議 員

でも自分らしく生きることのできる地域社会を目指す」と「がん対策推進基本計画」に謳われている。がん患者への偏見をなくし、正しい知識を得る機会を設けるとあるが、当町の取り組みは。

問 国保被保険者以外の町民の保健データの把握は。



女性検診車。ピンクとブルーの明るい色でほっとします

町長 医療費削減が目的ではない。町民の健康を守る、健康な町を作ることが目的である。検診や健康教育で町民自ら健康を管理して健康増進を図るよう施策を打っていく。

町長 将来設置する予定の「高校生会議」をサポートする役割を担う。高校生が抱く夢の実現に向けて平泉町の協働の町づくりの中核を担う推進役を期待している。

問 成人保健事業において、当町は様々な取り組みでがん検診の受診率向上を図っているが、その内容は。

町長 20歳から60歳までの5歳ごとを節目に受診料を無料にして受診を促している。また、検診や講演会に参加するとポイントがたまり景品と交換できる、「健康ポイント事業」を行っている。

問 二人に一人ががん患者になるといわれている。患者となつて



ポイントをためて、健康とプレゼントを手に入れましょう!

問 特定検診は国民健康保険事業の取り組みであるが、対象者は。

町民福祉課 国民健康保険に加入している40歳から74歳までの方である。

問 国保事業は、メタボリックシンドロームの減少と特定検診・保健指導の受診率の向上、医療費の削減が目標となっている。町民が健康を獲得することが究極の目的ではないか。

保健センター 町は国保は持っている。今後のデータは持つていない。今後国、県もネットワークをつないで情報共有し介護予防、救急医療に対応する動きはある。

問 昨年度設置の「若者会議」に期待するものは。

まちづくり推進課長 今年度は会議のメンバー11人に、どういうことができるか自ら考えて企画し、積極的に事業展開させたい。その事業には予算もつける考えである。

問 令和3年度から総合計画に町民の意見聴取は。まちづくり推進課長 高校生を代を中心に1900人の町民アンケートを行っている。今後当町で活躍できる世代の意見を生かす総合計画10年間の施策を作っていく。

「大切なものは失ってみて初めてわかる」と言います。なにものにも代えがたいものが「健康」ではないでしょうか。若い世代に関心を持ってもらう工夫、SNSを使った発信も。

議員のひとりごと

Q 「屋外広告物条例」の見直しは

A 条例と運用を検証し検討を

問 「屋外広告物法」の改正に伴い、町の「屋外広告物条例」と法との齟齬が生じている。条例改正の必要はないか。

町長 県内では3つの自治体が屋外広告物条例を制定している。見直しについては他自治体の動向を見ながら対応したい。

建設水道課長 公職選挙法「選挙運動」は適用除外となつていますが、「政治活動」は除外対象となつて

通認証を持つことが必要である。町の条例運用マニュアルは「選挙運動」と「政治活動」を区分し規制の対象としている。また、法律が許容する内容を条例に盛り込んでいない。

建設水道課長 広告物法で条例に盛り込む必要がないと解釈している。

問 憲法21条が保障する「表現の自由」を本町条例は否認している。

町長 法が定める「条例の適用にあたり留意すべき事項」を条例に盛り込むべきである。

問 最高裁判決においても「政治活動の自由は法律によっても制限できない、憲法21条の保障を受ける」と明確に判断している。

建設水道課長 広告知法で条例に盛り込む必要がないと解釈している。

問 性別に関する意識の大切さを分かっていても、日常生活の中を振り返れば反省する面も多い。一朝一夕に切り替えることは難しいと思うが、学校と一緒に連携して進めたい。

教育長 意識の中では共同参画の大切さを分かっていても、日常生活の中を振り返れば反省する面も多い。一朝一夕に切り替えることは難しいと思うが、学校と一緒に連携して進めたい。

問 男女混合名簿は性別にとらわれず活躍できる社会、男女共同参画社会の構築をめざす目的で進められている、本町の導入の現状は。

教育長 両小学校に於いては、すでに混合名簿を導入している。中学校は今年度の検閲を経て、次年度から使用が計画されていると聞いている。

問 性別に関する意識の大切さを分かっていても、日常生活の中を振り返れば反省する面も多い。一朝一夕に切り替えることは難しいと思うが、学校と一緒に連携して進めたい。

教育長 意識の中では共同参画の大切さを分かっていても、日常生活の中を振り返れば反省する面も多い。一朝一夕に切り替えることは難しいと思うが、学校と一緒に連携して進めたい。

問 性別に関する意識の大切さを分かっていても、日常生活の中を振り返れば反省する面も多い。一朝一夕に切り替えることは難しいと思うが、学校と一緒に連携して進めたい。



男女別（名簿）に整列する平泉中学校の入学式

町が制定する「条例」は、「町の法律」です。「国の法律に明記されているから、条例に明記しない」との解釈は事実上有効とはいえない「ザル条例（法）」を認めることになる。

議員のひとりごと



高 橋 伸 二 議 員

総務教民 常任委員会

- 研修日程：令和元年10月15日～16日
- 研修目的：子育て支援事業の取り組み
- 研修先：宮城県川崎町、山形県長井市

*宮城県川崎町

かわさきこども園は、宮城県の公立として初めての幼保連携型認定こども園として開設された。園児数184名で敷地と建物床面積が広大であり、園児達がおのびのびと遊び学べる環境はうらやましい限りであった。保育と教育を一つの施設で行うこども園の効果は児童の情緒的発達に有効であり待機児童の解消につながる。課題は、やはり保育士の確保であり募集しても応募者がなく、退職者・OBに短時間保育の応援をもらっている。保育士不足による職員の勤務負担により、保育士が定着しないことは、解消の急がれる喫緊の課題である。



*山形県長井市

山形県長井市の保育士確保策として展開している保育士トライアル制度について視察した。保育士の確保の為、資格をもちながら勤務していない保育士の就職を推進する目的で平成30年に新規事業として実施された。実績として保育士の確保は出来ていないが、近郊の大学を訪問し保育士確保のための人材募集活動がされている。こうしたネットワークも子育て支援の独立した部署だからこそ為せることである。その他にもスマホを活用した子育てアプリなどの独自の施策を展開している。本町においても、子育て支援課を設置し課題の解消と、きめの細かな施策の展開が出来るよう取り組みを見直すべきである。

産業建設 常任委員会

- 研修日程：令和元年10月7日～9日
- 研修目的：農業振興策、観光振興策
- 研修先：福井県あわら市
福井県鯖江市 (株)漆琳堂、(株)Hacoa

*福井県あわら市

農業就労年齢の高齢化と担い手不足、農業離れが進む中において、「あわら市」が実践している「農家支援組織『ねこの手クラブ』」は、高齢農家や繁忙期に人手不足の農家を支援する目的で設立され、農業の継続を望んでいる個人農家や新規就農者に対し大きな支援策となっている。

その取り組みは、農地の有効活用や遊休農地の発生未然防止にも大きく寄与している。

一方で、「畑作農業」に限定した支援に留まらず稲作農家、中山間地農業を支える体制を巡る課題を抱えていた。

あわら市の「農業支援センター」の取り組みは、平泉「道の駅」への地場産品出荷の現状に鑑みた場合、一朝一夕にできるものではないが本町においても大いに参考にすべき取り組みである。

*福井県鯖江市

伝統工芸品「越前漆器」をめぐる産業振興の現場と伝統を次代に繋ぐ取り組みに触れ、歴史と文化に育まれた伝統工芸品づくりを「伝承」する心の豊かさ、それを「伝統」として育み続ける姿、行政とも連携し耕作放棄地などを対象に2万本の「漆の苗木」を植栽するなど、その取り組みには目を見張るものがある。

本町の伝統工芸「秀衡塗」も「伝統」を発展させ、育み続ける行政のサポートが求められている。



県南地区町村議会議長会 議員研修会

西和賀町議会、金ヶ崎町議会、住田町議会、平泉町議会の4町議会による議員研修会が7月29日平泉町文化遺産センター等を会場に行われ、議員同士の情報交換、交流を深めました。



Q 短期学童保育は出来ないか



阿部圭二 議員

A 休み限定は出来ないが検討していく

問 学童保育の財政支援を強める必要があるのでは。

町長 今後も児童クラブとの連携を図りながら財政支援の強化に努める。

問 学童クラブでの利用料の負担を減らす努力が必要ではないか。

町長 利用料は他の自治体と比較しても安い金額である。さらに多子世帯や一人親などでは減免規定がある。

問 子どもの面倒を人がいる場合は利用できないのか。

町民福祉課長 家庭で子どもが出来る人がいる場合は利用できない。

問 1日、2日や1カ月などの短期間の保育事業は出来ないのか。

町民福祉課長 一時利用の利用料などをとっているところもある。休み限定というのは難しいが検討していく。

問 土曜日や18時以降にも費用を払っている。年間4万円にもならないか。

町民福祉課長 保護者会で決めているものである。委託費として上乗せは出来ない。

Q 駐車場の奥の空き地を利用できないか
A 安全に駐車できるように検討する

問 中尊寺第一駐車場のスペースが足りないのに、奥の空き地を利用出来ないか。

町長 段差と利用者の安全確保と史跡の保全や周辺の環境の状況など、調査検討し方向性を決定したい。

問 無料の駐車券を発行しているのか。

観光工商課長 業者のため使用許可証は条例により発行している。

問 業者の方々が従業員の車が奥の空

学童保育に友達が入っていたら祖父母がいても子どもが入りたくるのではないか。特に短期休みに。それは間違ったことなのか。

議員のひとりごと

その他質問事項
・河川敷の立木伐採について

観光工商課長 町営駐車場の整備が必要である。また、どこでも安全に駐車できるように体制の確保を考え検討していく。

地を利用しているが、現状のまま町営駐車場として利用できないか。